多文化家庭の児童の差別経験が学校生活適応に及ぶ影響
： 自我尊重感のパラメータの効果を中心に

○全北大学校社会科学大学社会福祉学科副教授　金純圭
崔惠貞（全北大学校社会科学大学社会福祉学科博士課程）
李周宰（木浦カトリック大学校社会福祉学科教授）

1. 研究目的

本研究は多文化家族と関連し、国際結婚移住女性の子供学校生活適応を見てみる。まだ、多文化家族に対する偏見が蔓延している韓国社会で学齢期に入った多文化家庭の子供は、他の人と異なる外観、二重文化などで差別を経験している。したがってこのような差別経験が学校生活適応に及ぶ影響を調べることに目的がある。

2. 研究方法

そこで、本研究は多文化家族の児童の学校生活適応と関連して、この人たちだけが経験する差別と学校生活適応との関係をみて、学校生活適応に及ぼすストレスの否定的な影響を緩衝する保護要因である自我尊重感のバラメータの効果を検証した。このため、中小都市の４つの地域に居住している多文化家の児童の小学校に在学中の 293 人を分析した。データは SPSS18.0 と Amos18.0 を使用して分析した。

3. 主な結果

分析結果、差別経験は学校生活適応に否定的な影響を及ぼしており、自我尊重感は学校生活適応にプラスの影響を及ぼした。また、自我尊重感は差別の経験と学校生活適応の一部に媒介することがわかった。

4. 結論

本研究の結果に基づいて、多文化家族の子供たちの学校生活適応を向上させるための様々な実践的。政策選択肢を提示した。